

令和6年度 第3回 大阪市立花乃井中学校 学校協議会 実施報告書

校園名 大阪市立花乃井中学校
校園長名 塩見 貴志

日 時	令和7年3月11日(火) 18時30分～20時00分					
場 所	大阪市立花乃井中学校 多目的室(新館6階)					
出席者	委員など	尾松 正章(会長)、原田 博司(委員)、石川 久留美(委員)、野島 淳(委員)、竹川 東一郎(委員)、穂積 浩(委員)、山住 智則(委員)、小林 基之(委員)、岩佐 俊治(委員)				
	校園	塩見 貴志(校長)、上野 元義(副校長)、佐野 健一(教頭)				
	区役所	村上 洋則(教育担当係長)				
議 題	(1)「運営に関する計画」(最終評価)について (2)「中学校のあゆみ」について (3)学校の現状について (4)学校関係者評価について (5)今後の予定・その他					
協議要旨	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 5px;">協議の結果</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">意見の概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 10px;"> ○「運営に関する計画」(最終評価)について、【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】に関しては、学校はしっかりと取組をされているが、結果として目標は達成できなかったので、達成状況を「C」とすることで、学校協議会全委員から了承をいただいた。 ○「中学校のあゆみ」について、出席した学校協議会全委員から了承をいただいた。 </td> <td style="padding: 10px;"> ○不登校の対策として、これまでも区役所の子育て支援室やSSWと学級担任・生徒指導主事が連携してきたことと、モデル校としてSSRを設置して、不登校生の居場所づくりの機能が果たされていることは、良い。 ○生徒のタブレット端末使用について、形式的に目標値を上回るための取組をせずに、授業や取組等でグループワークをさせてことで、端末を有効活用できているのは、素晴らしいことである。 ○これまで与えられた課題を確実にこなす力はついていたが、生徒が自主的に意欲的に課題に取り組ませる仕掛けを試みているのは、今後が楽しみである。 ○体力に関しては、毎年課題がみられるが、全国や大阪府の平均と比較するのではなく、過去のデータ(経年)と比較してどうなのか、検討していただきたい。 ○不登校生が中学校を卒業した後も、家に引きこもっている状態が続くと、つらいと思う。しかし、多様な受け入れ先の学校等に進学し、適応できている子もいることを聞き、少し安心している。 </td> </tr> </tbody> </table>	協議の結果	意見の概要	○「運営に関する計画」(最終評価)について、【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】に関しては、学校はしっかりと取組をされているが、結果として目標は達成できなかったので、達成状況を「C」とすることで、学校協議会全委員から了承をいただいた。 ○「中学校のあゆみ」について、出席した学校協議会全委員から了承をいただいた。	○不登校の対策として、これまでも区役所の子育て支援室やSSWと学級担任・生徒指導主事が連携してきたことと、モデル校としてSSRを設置して、不登校生の居場所づくりの機能が果たされていることは、良い。 ○生徒のタブレット端末使用について、形式的に目標値を上回るための取組をせずに、授業や取組等でグループワークをさせてことで、端末を有効活用できているのは、素晴らしいことである。 ○これまで与えられた課題を確実にこなす力はついていたが、生徒が自主的に意欲的に課題に取り組ませる仕掛けを試みているのは、今後が楽しみである。 ○体力に関しては、毎年課題がみられるが、全国や大阪府の平均と比較するのではなく、過去のデータ(経年)と比較してどうなのか、検討していただきたい。 ○不登校生が中学校を卒業した後も、家に引きこもっている状態が続くと、つらいと思う。しかし、多様な受け入れ先の学校等に進学し、適応できている子もいることを聞き、少し安心している。	
協議の結果	意見の概要					
○「運営に関する計画」(最終評価)について、【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】に関しては、学校はしっかりと取組をされているが、結果として目標は達成できなかったので、達成状況を「C」とすることで、学校協議会全委員から了承をいただいた。 ○「中学校のあゆみ」について、出席した学校協議会全委員から了承をいただいた。	○不登校の対策として、これまでも区役所の子育て支援室やSSWと学級担任・生徒指導主事が連携してきたことと、モデル校としてSSRを設置して、不登校生の居場所づくりの機能が果たされていることは、良い。 ○生徒のタブレット端末使用について、形式的に目標値を上回るための取組をせずに、授業や取組等でグループワークをさせてことで、端末を有効活用できているのは、素晴らしいことである。 ○これまで与えられた課題を確実にこなす力はついていたが、生徒が自主的に意欲的に課題に取り組ませる仕掛けを試みているのは、今後が楽しみである。 ○体力に関しては、毎年課題がみられるが、全国や大阪府の平均と比較するのではなく、過去のデータ(経年)と比較してどうなのか、検討していただきたい。 ○不登校生が中学校を卒業した後も、家に引きこもっている状態が続くと、つらいと思う。しかし、多様な受け入れ先の学校等に進学し、適応できている子もいることを聞き、少し安心している。					
協議資料	<input type="checkbox"/> 令和6年度「運営に関する計画」(最終評価) <input type="checkbox"/> 「中学校のあゆみ」 <input type="checkbox"/> 学校関係者評価 <input type="checkbox"/> 承諾書					
備考	傍聴者[0]名					

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立花乃井中学校 学校協議会

1 総括についての評価

- 令和 6 年度の自己評価の最終評価の結果は概ね妥当である。大阪市教育振興基本計画の「最重要目標」の【安心・安全な教育の推進】については、特に不登校の課題に対してさまざまな取組をして、不登校生の居場所づくりに注力してこられた。また、【未来を切り拓く学力・体力の向上】の学力の向上については、生徒が自主的に意欲的に課題に取り組ませる仕掛けを試みているのは、今後が楽しみである。【学びを支える教育環境の充実】については、生徒のタブレット端末の授業や取組等でのグループワークでの使用、端末の家庭への持ち帰り、朝の読書活動の定着化で自分の好きな本を持参することによる学校図書館からの貸出冊数自体は減少、などといった定められた尺度でいえば「取り組んだが目標を達成できなかった」ことになる。しかし、新しいことにチャレンジしたり、学びの基礎となる読書の定着化に取り組まれていたりしているので、今後も継続していただきたい。
- 新しいことに挑戦するとともに、安心・安全な学校づくりを推進する花乃井中学校これからも期待し、子ども達のためにしっかりと教育活動に取り組んでほしい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

- 学校の自己評価は妥当である。
- 全市共通目標および学校の年度目標は、ほぼ達成することができた。落ち着いた環境のもと、「安心・安全」の取組の中で子ども達が学校生活を送ることにより、授業を基本しながら、学校行事を通じて取り組んだ成果が表れている。特に、平成 23 年度より道徳・特活・総合の時間を C T の時間と名付け、「夢」「絆」「命」の 3 つの柱とし、道徳的実践力と社会性の育成をめざす取組が定着し、その成果も表れている。一方で、不登校生の割合がここ数年で急増し、昨年度の 2 学期末の 100 名から今年度の 2 学期末は 79 名、13.3% となり、少し減少・改善がみられる。先生方の尽力、区役所・市教委(SSR モデル校)との連携も含めて、しっかりと取り組んでいただきたい。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上

- 学校の自己評価は妥当である。
- 全市共通目標および学校の年度目標は、ほぼ達成することができた。比較的落ち着いた学習環境のもと、学校総体として教員の授業力、言語活動を積極的に取り入れた授業を、今後も継続して取り組んでいただきたい。これまで、与えられた課題を確実にこなす力はついてきたが、これからはさらなる向上をめざして、生徒が自主的に意欲的に課題に取り組ませる仕掛けを試みているのは、今後が非常に楽しみである。

また、体力面については、これまで通り課題がみられるが、全国や大阪市の平均と比較するのではなく、花乃井中学校の過去のデータ（経年）と比較してどうなのかを、検討していただき、引き続き、子どもたちの体力向上のために粘り強い指導をお願いしたい。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

- 学校の自己評価は妥当ではない。
- 全市共通目標および学校の年度目標は、達成できなかった。しかし、目標設定をクリアするためだけの取組ではなく、生徒に実のある取組をさせてきたといえる。つまり、生徒のタブレット端末を家庭に持ち帰らせることにより、家庭での自主学習を促進する。次に、授業や取組等で、全員が同時に端末を使用するのではなく、グループワークや発表をすることで、教育的効果を高めて、端末を有効活用できている。また、朝の読書活動がきちんと定着化することにより、学校図書館から貸し出しあることなく、自分の好きな本を持参することによって、学校図書館での貸し出し冊数自体は減少することになったが、取組自体は間違っていないので、今後も継続してほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- 不登校生の中学校卒業後の様子が心配だったが、多様な受け入れ先の学校等に進学し、適応できている子もいることを聞き、少し安心できました、
- 生徒に対するこまめな対応などを感じます。